

川柳 二十九年四月 「段」「舞う」

よらよらの 孫立ち上がり 舞う仕草 掘 輝規

目指したい 主夫業初段 いつの日か 掘 輝規

すずなりの 柿を見た熊 舞い踊る 掘 輝規

鼻唄で 階段降りた 若い頃 山本 昭子

今手すり つかまり降りる 階段と 山本 昭子

桜舞う 出会いと別れの 涙あり 山本 昭子

神社には 長い石段 有りますね 伊藤 直人

舞う鶴は 志梁校歌の 一小節 伊藤 直人

舞鶴に 鶴が来たこと 有りますか 伊藤 直人

桜舞う 嬉し哀しの 別れ道 谷口 明世

段取りの 悪さ見ぬふり 主夫の家事 谷口 明世

段差あり 小さいけれど 要注意 谷口 明世

人情と 段差に弱い 見栄っぱり 西沢 秀子

階段の 手すり時には すべり台 西沢 秀子

桜舞う また来年と いいながら 西沢 秀子

また勝った 中学四段 レジエンド超え 藤原 輝治

乱れ舞 桜はいいが 大臣ダメ 藤原 輝治

舞台うら 米朝腹の 探り合い 藤原 輝治